

第 1 期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

千葉大学

平成 2 3 年 5 月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目のすべてが「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(顕著な変化が認められる点)

- 中期計画「外国語教育においては、英語教育を重視し、コミュニケーション能力及び専門分野における運用・発信能力を効率的・効果的に育成する。このため、本学が推進してきたコンピュータの活用等による学習体制を一層整備するとともに、学生の英語学習に対するモチベーションを高め、学習時間数を増加させる」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、モチベーションを向上させる取組の結果、TOEIC スコア 500 点以上・600 点以上・700 点以上の学生が受講できる授業科目（中級・上級英語）の履修者が 2.5 倍以上に増加していることから、「良好」となった。
- 中期計画「外国語教育の成果を検証するため、国際教育開発センターは、外部試験（TOEFL、TOEIC、TOEIC-IP 等）の全学的基準を設定する。各学部はこれを活用し、学習到達目標の達成に努める」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、「おお

むね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、TOEIC-IP の平均点数 500 点以上の学部が 2 学部（平成 19 年度）から 5 学部（平成 21 年度）へ増加し、また 500 点以上を達成した学生数は 559 名（平成 19 年度）から 1,130 名（平成 21 年度）へ約 2 倍に増加していることから、「良好」となった。

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（8 項目）のうち、2 項目が「良好」、6 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、3 項目が「良好」、5 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「各学部は、一般選抜の他、その特性に応じた AO・推薦入学、飛び入学、社会人・帰国子女の受入れ、3 年次編入学等の実施を検討し、新たな選抜方法の導入及び改善を行う」について、飛び入学制度の拡充及び入試方法の改善、千葉県内の現役高校生を対象とした地域枠 AO 入試の導入等、各学部の特性に応じた新たな選抜方法の導入や選抜方法の改善が行われていることは、多様な学生の受け入れのための工夫がなされている点で、優れていると判断される。

（顕著な変化が認められる点）

- 中期計画「各研究科（学府）は、学位論文審査の公開性・客観性の進展を図るため、未発表データ等の保護に十分に配慮しつつ、外部審査委員の参画等を推進する。また、審査基準を見直して、その明確化に努める」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、外部審査員の参画を推進した結果、5 名（平成 19 年度）から 67 名（平成 21 年度）へ大幅に増加していることから、「良好」となった。

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の

下に定められている具体的な目標（6項目）のうち、1項目が「良好」、5項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」、5項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「看護学部附属看護実践研究指導センターは、全国共同利用施設として看護師等の継続教育及び看護学教員の FD 支援を充実させるため、より効果的な研修内容及び実施方法等を検討し、改善する」について、看護管理者講習会、看護学教育指導者研修、国公立大学病院副看護部長研修等を、研修内容・実施方法等の改善を図りながら実施し、看護師等の継続教育及び看護学教員のファカルティ・ディベロップメント（FD）支援を推進したことにより、研修に参加した看護学教員の指導方法の改善等につながったことは、看護学教育の質の向上に貢献している点で、優れていると判断される。
- 中期計画「先進科学プログラム（飛び入学による教育課程）実施学部は、先進科学教育センター及び関連学部等と連携協力するとともに、全学の意見を聴取しつつ、教育の質の向上を図る」について、先進科学センター及び関連学部等が連携協力し、「飛び入学制度」の拡大・充実を図るとともに、「先進科学セミナー」を開講し、入学当初から少人数のゼミ形式の教育などを行っていることは、教育の質の向上が図られている点で、優れていると判断される。

④ 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、3項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、3項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

（Ⅱ）研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目のすべてが「良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「環境と調和し持続的発展が可能な社会の実現に向け、従来の研究分野の枠にとらわれない学際的かつ先端的複合研究を積極的に推進する」について、千葉県等の地方自治体、かずさDNA研究所、放射線医学総合研究所等との連携が進められ、学際的かつ先端的複合研究を積極的に推進し、着実に成果を上げていることは、優れていると判断される。
- 中期計画で「産官学連携による研究活動を総括的に推進する体制を確立する」としていることについて、産学連携・知的財産機構を設置するなど、産学連携推進のための体制作りに注力し、国立大学では2番目に学内型技術移転機関（TLO）の承認を得たことは、研究成果の社会への還元を推進する体制を確立している点で、優れていると判断される。

(顕著な変化が認められる点)

- 中期計画「バイオサイエンス、ナノテクノロジー、情報通信及び環境の分野で、国

際レベルの最先端研究の成果を発信する」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、当該法人からプレスリリースされた研究について、優れた学術誌に掲載されるなど、国際レベルの最先端研究業績が発信されたことから、「良好」となった。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（6 項目）のうち、1 項目が「非常に優れている」、3 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「非常に優れている」、3 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

(優れた点)

- 中期計画「全国共同利用施設である真菌医学研究センターは、病原微生物のナショナルバイオリソースセンターの機能を持つ全国的かつ国際的な中核機関として、真菌感染症に関する研究を推進するとともに、真菌バイオテロ対策の基礎研究に取り組む」について、真菌医学研究センターは、ナショナルバイオリソースプロジェクト病原微生物の中核機関として、真菌感染症に関する研究を推進し、主要な病原真菌約 13,400 株、放線菌約 1,200 株を収集・保存し、国内の関連領域の研究者等に提供できる体制を整備していることは、優れていると判断される。

(Ⅲ) その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1 項目）が「良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のすべてが「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、3項目のすべてが「良好」であることから判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「千葉県・千葉市等と連携協力し、地域における保健・医療・福祉サービスの質の向上を図るため、関連部局の目標に応じた活動を推進する」について、教育学部による「地域住民や学校を中心とした救急蘇生、一次処置のための解説講演」、法経学部による「千葉県医療 ADR 立ち上げ支援」、医学部等による「NPO 千葉医師研修支援ネットワークの立ち上げ」等、各部局の特性を活かした様々な地域貢献プロジェクトを実施していることは、地域における保健、医療、福祉サービスの質的向上に貢献している点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期目標「国際的競争力ある大学を目指し、活発な国際交流を展開し、高等教育及び学術研究の拠点としての国際的責任を果たすとともに、地域の国際性の向上に貢献する」について、「千葉大学国際化の指針」の作成、千葉大学校友会海外支部ネットワークの形成、上海交通大学（中国）との特別選抜制度の実施、千葉大学中国オフィス（北京）の開設等、大学の国際化を積極的に推進していることは、特色ある取組であると判断される。